3［金・祝］ー5［日］高校生と創る演劇『101年目の夏休み』
◉ PLATアートスペース

5［日］第65回豊橋邦楽大会 日本舞踊の部◉PLAT主ホール

12［日］韓国伝統舞踊公演「錦秋に舞う」◉PLATアートスペース

16［木］ー19［日］穂の国とよはし芸術劇場PLATプロデュース『たわごと』
豊橋公演◉PLAT主ホール

18［土］ショパン(株)ミュージックアカデミー
第5回発表会◉ PLATアートスペース

22［水］ー23［木・祝］
□字ッグ『剥愛』◉PLATアートスペース

24［金］矢野顕子さとがえるコンサート
2023 featuring 小原礼、佐橋佳幸、林立夫
◉ PLAT主ホール

26［日］松本千明バレエスタジオ
第3回発表会◉PLAT主ホール

26［日］ー27［月］世界劇団
『零れ落ちて、朝』◉PLATアートスペース

11

2［土］豊橋おやこ劇場協議会第492回高学年部例会『12人の怒れる男たち』
◉PLAT主ホール

3［日］［ティーズ］×NHK「きかんしゃトーマスキャラクターショー」
◉PLAT主ホール

9［土］ー10［日］teamGAKU『Musical QUIZ』◉PLAT主ホール

13［水］ミュージカル『クリスマス・キャロル』◉PLAT主ホール

17［日］「伝統芸能粋～唄語日和(ウタカタビヨリ)」
伝統芸能特別公演◉PLAT主ホール

22［金］ー23［土］劇団フィータル第二回公演『ベース』
◉PLATアートスペース

24［日］きかんしゃトーマス クリスマスコンサート
ソドー島のメリークリスマス◉PLAT主ホール

25［月］ー26［火］豊橋演劇鑑賞会
第295回例会(振替公演)劇団民藝＋てまつ座公演
『ある八重子物語』◉PLAT主ホール

27［水］世界を奏でる～帰国記念～ 島岡里梨香
マリンバ1stリサイタル◉PLATアートスペース

12

TOYOHASHI ARTS THEATRE
PLAT

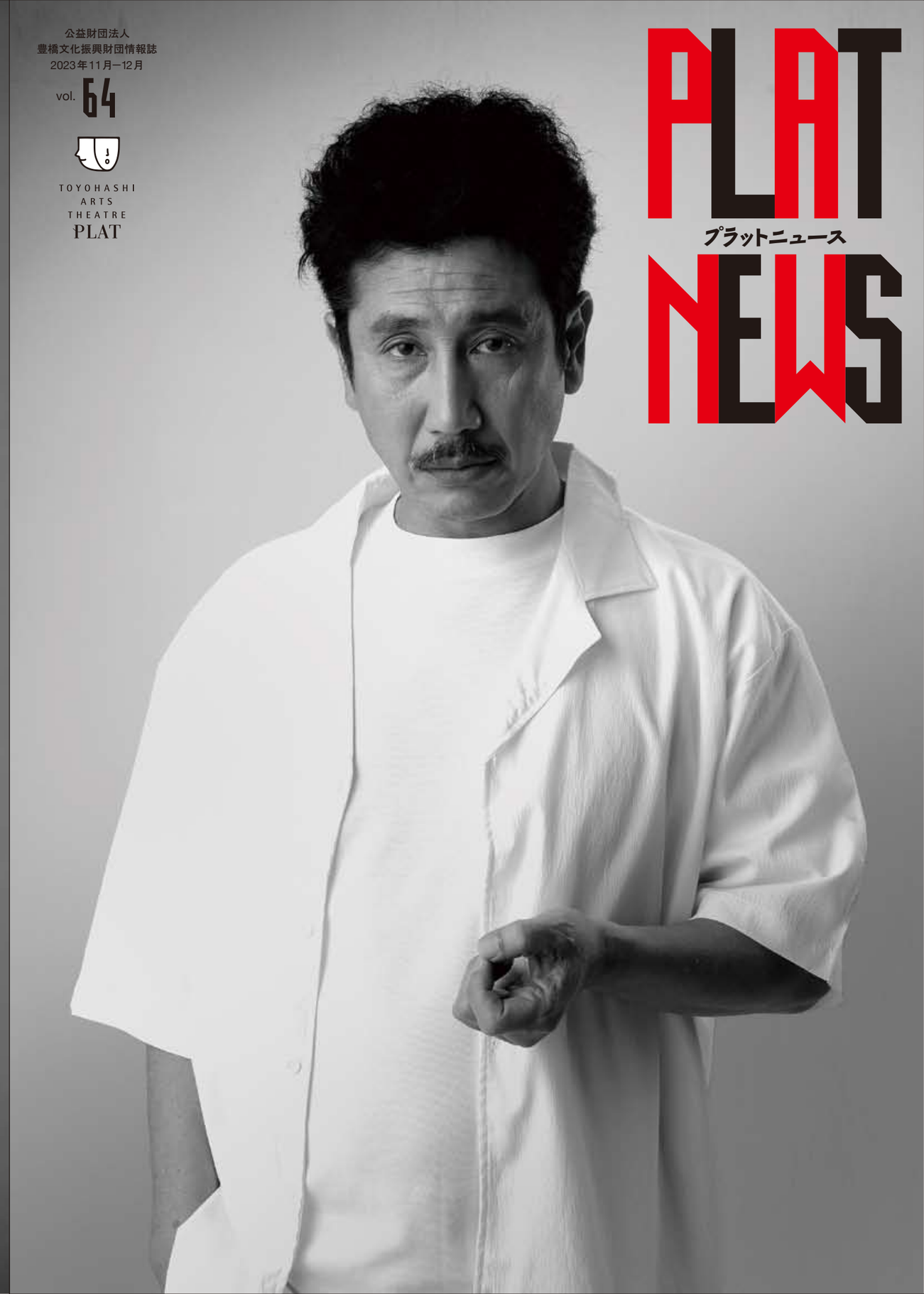
表紙／渋川清彦『たわごと』撮影：伊藤華織
裏表紙／さとうほなみ『刺愛』
企画・発行／公益財団法人豊橋文化振興財団
編集・デザイン／味岡伸太郎＋有限会社STAFF
令和5年10月発行64号［隔月発行］

PLAT NEWS
プラットニュース

公益財団法人
豊橋文化振興財団情報誌
2023年11月ー12月
vol. 64

TOYOHASHI
ARTS
THEATRE
PLAT

PLAT NEWS
プラットニュース



CONTENTS 目次

1
目次
表紙の顔
2
INTERVIEW:1
穂の国とよはし芸術劇場PLATプロデュース
『たわごと』
思っていたこと、書きたいことをとにかく乗せて、
言葉を疑う言葉の芝居をやりたい。
桑原裕子
5
INTERVIEW:2
高校生と創る演劇
『101年目の夏休み』
素晴らしい笑顔に非常に励まされている。
それをお客さまに届けたい。
吉田小夏
7
COLUMN
口字ック『剥愛』
片田舎の剥製工房で苦悩する、
“言葉にしがたい関係性” の人々
山田佳奈、さとうほなみ
9
INFORMATION
PLAT主催公演情報
13
DIALOGUE
高校生と創る演劇
『101年目の夏休み』
3日間のワークショップを経て、
高校生への印象と期待
14
SPONSOR
SUPPORT
TICKET CENTER

INTERVIEW インタビュー

桑原裕子[くわばら・ゆうこ]
東京都出身。劇作家・演出家・俳優。KAKUTA主宰。穂の国とよはし芸術劇場PLAT芸術監督(23年4月芸術文化アドバイザーから名称変更)。ワークショップや「ぷらっと文化祭Art Platter」「市民と創造する演劇」などを手がける。俳優業のほかに、テレビ、ラジオ、映画の脚本、舞台への作・演出など、多方面で活動。09年KAKUTA『甘い丘』第64回文化庁芸術祭・芸術祭新人賞(脚本・演出)受賞。16年KAKUTA『痕跡』第18回鶴屋南北戯曲賞受賞。18年穂の国とよはし芸術劇場PLATプロデュース『荒れ野』第5回ハヤカワ「悲劇喜劇」賞受賞、読売文学賞戯曲シナリオ部門受賞。19年に劇団作品『ひとよ』が白石和彌監督で映画化。映像脚本にNHK「ぬけまいる」、昭和歌謡ミュージカル「また逢う日まで」など。その他近年の主な舞台に『徒花に水やり』(出演)『シブヤデアイマショウ』(出演)『ロビー・ヒーロー』(演出)『サンセットメン』(演出)『閃光ばなし』(出演)『宇宙よりも遠い場所』(出演)『少女都市からの呼び声』(出演)など。

撮影:金子愛帆

吉田小夏[よしだ・こなつ]
劇作家、演出家、青☆組主宰。桐朋学園芸術短期大学非常勤講師。『雨と猫といくつかの嘘』『時計屋の恋』等、4作品で日本劇作家協会新人戯曲賞に入賞。『海の五線譜』で北海道戯曲賞優秀賞受賞。心の琴線に触れる美しく繊細な対話劇で、幅広い年代の支持を集める。青少年との演劇ワークショップや、市民劇の創作、NHK-FMラジオドラマ脚本など幅広く活躍。こども達や親子に向けた演劇作品の上演にも定評があり、日本各地で多彩な活動を展開している。

COVER 表紙の顔

撮影:伊藤華織

渋川清彦[しぶかわ・きよひこ]
1974年7月2日生まれ、群馬県渋川市出身。KEE名義でモデル活動を経て、『ボルノスター』(98)で映画デビュー。映画制作集団「大田原愚豚舎」の第1回作品『そして泥船はゆく』(13)で映画単独初主演。『お盆の弟』(15)、『アレノ』(15)の2作品で第37回ヨコハマ映画祭主演男優賞を受賞。『閉鎖病棟 -それぞれの朝-』(19)、『半世界』(19)、『ウィーアーリトルゾンビーズ』(19)で第32回日刊スポーツ映画大賞・石原裕次郎賞/助演男優賞を受賞。近年の主な映画出演作に、『聖地X』(21)、『偶然と想像』(21)、『キングダム2 遥かなる大地へ』(22)、『コンビニエンス・ストーリー』(22)など。本年は『Winny』、『GOLD FISH』、『almost people』、『怪物の木こり』が公開。

さとうほなみ
東京都出身。17年よりさとうほなみとして女優活動をスタート。近年の主な出演作品に、映画『窮鼠はチーズの夢を見る』(20年/行定勲)、Netflix『彼女』(21年/廣木隆一)、『恋い焦れ歌え』(22年/熊坂出)、『愛なのに』(22年/城定秀夫)、『銀平町シネマブルース』(23年/城定秀夫)、『次元大介』(23年/橋本一)、『花腐し』(23年/荒井晴彦)、ABEMA『30までにとうるさくて』主演(22年)、テレビ朝日『六本木クラス』(22年)、Netflix『今際の国のアリスSeason2』(22年)、フジテレビジョン『あなたがしてくれなくても』(23年)、読売テレビ『彼女たちの犯罪』、舞台では「カノン」(21年)、ブロードウェイミュージカル「ヘドウィグ・アンド・アングリーインチ」(22年)などがある。「ゲスの極み乙女」のドラマー、ほな・いこかとしても活動。

INTERVIEW:1 インタビュー

穂の国とよはし芸術劇場PLATプロデュース
『たわごと』

11月16日[木]19:00　17日[金]、18日[土]、19日[日]13:00開演
作・演出=桑原裕子
出演=渋川清彦、田中美里、谷 恭輔、松岡依都美、松金よね子、渡辺いっけい
会場=PLAT主ホール

撮影:伊藤華織

幾千もの　たわごとの上に横たわり　生きさらばえるなんて　ごめん
そうやって吐き捨てたはずの　いつかをわすれて　まだわたしは　まっている

京都公演
11月23日[木・祝]
会場=ロームシアター京都 サウスホール

岡山公演
11月26日[日]
会場=岡山芸術創造劇場 ハレノワ 中劇場

東京公演
12月8日[金]～17日[日]
会場=東京芸術劇場 シアターイースト

助成:文化庁文化芸術振興費補助金 統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業(アートキャラバン2)
独立行政法人日本芸術文化振興会

穂の国とよはし芸術劇場の開館10周年を記念して、PLATプロデュースによる演劇作品第三弾の新作公演『たわごと』を上演いたします。

本作の作・演出を務めるのは、PLATの芸術監督・桑原裕子。出演は、渋川清彦、田中美里、谷恭輔、松岡依都美、松金よね子、渡辺いっけいの6名が務めます。世代を越えた実力派出演陣と桑原裕子、そしてPLATが一つとなり、豊橋公演を皮切りに、京都、岡山、東京で上演する新作とは…。

寄る辺なき人々の生きづらさに焦点を当て、今を生きる人々を見つめ直す作風にも高い評価が集まる桑原が描く『たわごと』の世界に迫ります。

矢作―― PLATのプロデュースの演劇公演としては、『父よ!』『荒れ野』、そして今回は『たわごと』と、三つ目の作品になります。前回『荒れ野』で桑原さんの作・演出で作品作りをしていろいろな形で非常に高い評価を得られました。今回、首都圏の劇場ではなく、豊橋の劇場と作っていくにあたり、桑原さんの期待やお考えをお伺いできますか。

桑原―― 2017年の『荒れ野』は、まだ私が芸術文化アドバイザーに就任する前で、劇団の作・演出家としてやらせていただいたんですけど、その時に印象深かったのは、東京での稽古期間の後、豊橋に滞在して、十日間ほどの劇場稽古の時間をもらったことです。それは、とても贅沢で濃密な時間でした。スタッフたちと話しあい、試行錯誤する時間を実際に利用する劇場でやらせていただけたこと。また、出演者の皆さんにとっては演劇のことだけを考えていい時間を本番以外に過ごしていただけたこと。

例えば映画などでブロードウェイの稽古現場が出てくると、劇場でずっと稽古してたりしますよね。それは日本ではなかなかできないことですが、本来はそれが理想なんです。豊橋で、その環境を提供していただけたことがとても新鮮だった。こういうクリエーションの仕方をもっと模索していけたらいいなと思って。今回も劇場でみんな一緒に共有する時間を大事にしたいと思っています。

矢作―― 今回の出演者6名は、どういう思いから選んだのでしょうか。

桑原―― このところコメディを書くことが多かったので、PLATでやるなら、人間ドラマをやりたいという思いがありました。私はよく「色気がある俳優さんに惹かれる」と言ってしまうんですが、それはいわゆる“お色気”ではなくて。人間の中にある苦みとかちょっとした寂しさとか、それぞれに複雑な色気を匂い立たせ

穂の国とよはし芸術劇場PLATプロデュース

『たわごと』

INTERVIEW 1

撮影：伊藤華織

思っていたこと、書きたいことをとにかく乗せて、言葉を疑う言葉の芝居をやりたい。

聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場PLAT芸術文化プロデューサー

作・演出 桑原裕子

る人たちが、いかにして結びついていくのかに興味があります。誰か一人、大スターがいて、そこに準じて物語を作っていくというより、一人一人造詣の深い人たちがぶつかり合ったときに生じる化学変化を描きたいんです。そこでもともと大好きな松金よね子さんや、田中美里さん、KAKUTAの谷恭輔というよく知る方々3人と、以前から惹かれていた渡辺いっけいさんと、渋川清彦さん、松岡依都美さんというお三方を組み合わせることを考えたのです。

渡辺さんは私が20代の頃からのファンで、自分がまさかお声がけできるとはみたいな感じでいました。渋川さんは映像の印象も強いし、色気のかたまりみたいな人ですが、以前舞台で拝見した時に、普段のイメージと全然違う役柄を演じていらして、すごくいいなと思った。いろんな表情をお持ちの方で、強さも弱さも見せられそうな方だなと思いました。松岡さんに最初にグッときたのは映画で、たまたま何本も立て続けに拝見したときに、いつかご一緒したいと思って密かに調べたことがあったんです。

以前共演したこともある美里ちゃんは、かわいさとサバサバ感をバランスよく持っていらっしゃる。知れば知るほど、このバランスを乱してみたいという欲望をかき立てられ、お声がけしました。松金さんは、私の劇団では重い苦しみを持った渋い役をやってもらったのですが、本来は朗らかでユーモラスで、両極端を共存できる方。ぜひ大きく支えていただけたらとお願いしました。そんな中で、劇団員の谷がきっと貴重な体験と刺激を受け、新しい魅力を発揮するのではと期待しています。

すごくいいメンバーだねとお声がけいただくことが多く、私もあまりにも理想的なキャスティングでプレッシャーが苦くのしかかっています。逆に重たがらないで、この人たちとできるワクワクする気持ちを持ってやれたらなと思います。『荒れ野』の時も最初ワクワクしていたのに、そのプレッシャーで、執筆中はまだ会ってもないのにもうみんな嫌いだみたいな気持ちになったのですが(笑)、稽古が始まったらまたすぐ好きになりました。またきっと、苦しんで書くことになると思うのですが。ちゃんと苦しみたいと思います。

矢作――『たわごと』というタイトルに込められた思いをお伺いできますか。

桑原―― 例えば政治家は、立候補するときに公約としてマニフェストを掲げますが、結局「目標でした」みたいな素人でもわかるようなごまかし方を平気でする。それを「また戯言(たわごと)か」と諦めるように聞き流してきた。今騒ぎになってもどうせ一週間もすれば忘れるだろうとごまかされ、私たちも慣らされている怖さがあります。個人的なことでも、果たされなかった約束とか、言葉によって動かされてきたものにどう決着をつけて来たかと考えるんです。若い頃は「俺たちずっと一緒だぞ、約束だからな」って言葉を本気で信じてたのに、いつから「人間って忘れちゃうもんだし」とか、「全部がほんとじゃないし」とか、直線的に信じることができずに手放すことばかりうまくなったのだろうと。戯言だと笑い流すにはあまりに苦しくて忘れられないようなことを一生懸命ごまかして忘れてきた経験は誰にでも、人生の中であったのではないか。

そういう未消化な思いや、言葉の呪縛のようなものを、6人の人間模様を通じて描きたいと思い、『たわごと』というタイトルにしました。

今、すごくスペクタクルな唐十郎さんの戯曲を役者としてらせてもらっている最中ですが、観劇するお客さんがその場ではせりふやシーンの意味が難解でまっすぐ理解できなくても、後で自分なりに考察したり、その時心に響いたものをただ持ち帰るような見方もあっていいんだなと思ったんです。だから私も、つじつまだけをたどっていくような物語の書き方でなく、今、自分が思っていたこと、書きたいことをとにかく乗せたい。言葉を疑う、言葉の芝居をやりたいなと思います。

矢作―― 今回PLATとしても初めて京都と岡山の劇場にお伺いします。このことに期待することをお聞かせください。

桑原―― 一時期大阪の劇場がどんどんとなくなっていった頃の話を、ちょうどこの前、関西の俳優さんとしていたんです。劇場が閉鎖になったり文化予算が削られたりするたび、芸術を愛する日本の偉い人はいないのではないかと、いつも悲しくなって。だから、岡山に新しい劇場ができるという話を聞いて本当に嬉しかった。ピーターパン風に、岡山にはまだ妖精がいたんだ!みたいな。

自分の戯曲作品を上演させてもらうのは初めてです。東京でどれだけ舞台を上演しても、離れている方にお越し頂くことは大変で、好きになる以前に知ってもらうことさえできない。こうやって受け入れてくれる場所があって初めて出会える。この機会を本当に楽しみにしています。

ロームシアター京都は、昨年俳優として立たせて頂きましたが本当に素晴らしい劇場で。大阪の劇場がどんどんなくなるという話をしていたときに、関西の希望はロームだねなんて話してたので、自分もその一助になれたらという思いです。

矢作―― 最後、豊橋の皆さんへのコメントをいただけますか。

桑原―― 芸術文化アドバイザー就任からもう5年ですが、その歩みを見てくださっているお客さまたちに再会できる喜びと、私の書くものがどう変化したかを見届けて頂けるありがたさを感じています。初めての作品を発表するというだけではなく、よく知る皆さんだからこそ、成長をお見せしたいという想いがあります。そういう感覚は劇団でしか持ち得ないものだと思っていたのですが、PLATとお客さんに育んで頂いているんだと思います。今回の桑原はどんくらい育った?と、少しだけやさしい気持ちで観ていただければ(笑)。お待ちしています。

11月3日[金・祝]、4日[土]13:00開演／18:00開演
5日[日]13:00開演

高校生と創る演劇

『101年目の夏休み』

東三河の高校生と、劇場やプロのスタッフがともに創作する演劇公演の第10弾。

作・演出＝吉田小夏
出演＝オーディションで選ばれた高校生
会場＝PLATアートスペース

INTERVIEW2
インタビュー

助成：文化庁 文化庁文化芸術振興費補助金
（統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業（アートキャラバン2））
独立行政法人日本芸術文化振興会

素晴らしい笑顔に非常に励まされている。それをお客さまに届けたい。

作・演出 吉田小夏

聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場PLAT芸術文化プロデューサー

矢作―― 吉田さん自身も、高校生時代に『転校生』（1994年青山円形劇場プロデュース）でプロの演出家やスタッフとの作品づくりを体験していますが、今回の「高校生と創る演劇」に作・演出家として関わるにあたり、高校時代にこのような企画を体験する意義やどういうことを目指したいかをお伺いできますか。

吉田――『転校生』で初舞台仲間だった桑原裕子さんが芸術監督を務めるPLATで、高校生と新作を創ることが出来るのは、神様のご褒美みたいと感激しています。おかげで当時のことを思い出しやすいです。PLATでは2020年の市民と創造する演劇『グッバイ・フランケンシュタイン-穂の国の怪物たち-』で脚本・演出を務めました。劇場に集う市民やアーティスト、働いている人たちがのびのび創れる素晴らしい環境で、またPLATに来られたことを嬉しく思います。名古屋市の児童劇団で創ったことがあり、その劇団の繋がりで豊川の小さいユニットで演劇を創ったこともあります。今回集まった高校生たちは、豊橋と豊川と名古屋の人が中心なので、私の中での愛知の集大成です。長い信頼関係がある演出助手も浜松と尾張出身です。自分の演劇活動の出会いが一カ所にきれいに結びついて、新しい節目になる作品だと感じています。

特別な思い入れを持って準備し、オーディションはかなりリクエストさせてもらいました。ワークショップ形式で、普段私が自分の劇団の出演者を決めるときとほぼ同じ内容でやりました。歌のソロの審査まで行い、かなり見えるものがありました。私は物語性のある対話劇を書くことが多いのですが、ただ日常を、ナチュラルにリアルに切り取るだけではなく、もう一つ、生きているものも死んでいるものも繋がっていたり、神様も暮らしの延長にあるみたいな世界観を創りたいというアイデアも温まっていました。演劇では60代が少年をやっても、10代がおじいさんをやってもいいのですが、20代、30代、40代にしかできない劇もある。今の高校生たちの声でしか放てないセリフを書きたいのです。なので、オーディションから1カ月空いてしまう中、PLATの制作チームに写真や動画で彼らの制服と私服の姿を送ってもらいました。きめ細やかなフォローによって新しいインスピレーションが浴びるように生まれ、俳優候補の方たちが素敵だったから内容も当て書きしやすく、東京で考えていたプロットは捨てて、新しく書き出したいという気持ちが湧いてきました。

この企画は10年間の蓄積がある。劇場スタッフの経験も資料も蓄積され、去年、一昨年の作品に出て、またやりたいと来てくれて、ものを創るスタンスが育っているメンバーがいたのもやりやすかったです。学校が始まると、忙しくてなかなか全員揃わないとアドバイスをいただき、脚本を早く仕上げるのが全ての余裕を生むと思いました。話や役が分かったら、若い彼らは自らを整えて稽古に来てくれるという期待がありました。内容を固めるのが順調で、テキストを少しでも持って来られたのはオーディションに集まってくれた彼らの魅力と劇場の素晴らしいサポート体制に尽きます。

矢作―― 今年参加している高校生たちについて印象をお聞かせください。

吉田―― 素晴らしい笑顔に非常に励まされています。それをお客さまに届けたい。スタッフは舞台上で笑顔を見せることはありませんが、笑顔で創った作品や準備したものには、それがこもる。お客様はきっとそれを見ただけで励まされ、来てよかったと思ってくれる。それは運が良くてそういう人が集まったということもあるし、本番でこういうことをしたい、こういう作品を創りたいということをできるだけ彼らに具体的に一生懸命伝えた上で、こんなに素晴らしい笑顔でいてくれることに、感謝とともに自信も持ちました。前向きにポジティブで積極的で風通しのよい高校生だなと思います。

矢作―― 高校生という若い世代と作品を創ることと、自分のカンパニーや、俳優や演劇を職業として選択している大人たちとの意識の差、同じようにやろうとしていること、変えていこうかと思うことはありますか。

吉田―― こういうシーンを創りたいとか、演技のクオリティーは全然変わらない。目指す高みは一緒です。気をつけていることは、先生になってしまうとクリエイティブな距離ではなくなったりする。それともう一つ、高校生は可能性の固まりです。現時点では、絶対に女優になると決めている子もいるが、これが最初で最後の演劇になったとしても10年後か20年後に思い出して勇気になるようにしたい。これでつらい思いをしたら、彼らにとって一生演劇がつらいものだったということで終わる。アーティストとしてその責任は感じています。

矢作―― 最後に、来場されるお客様に、観てほしい、ぜひ応援してほしい点をお聞かせください。

吉田―― アーティストとしてやってみたいことは常にあるのですが、今回の作品は、この街、この地域で暮らしている出演者、スタッフのみんながいたからこそ生まれた作品です。地産地消ではないけど、地元の方に一番観てほしい。私は豊橋に住んではいませんが、この街が私も好きで、お客さまに何か自分なりの贈り物にしたいと思って書き、演出しました。初めて演劇を観る方にも、何か分かった、何か泣いたり笑ったりできた、みんなの頑張りも素敵だったと素直に思ってもらえる作品になりました。演劇って難しいとか、やたら大きい声で台詞を言うだけでしょと決めつけずに、客席から参加して一緒にこの時間を楽しめる、そういうものなのだろうなと思って、ぜひ観に来ていただきたいです。

矢作―― ありがとうございます。

COLUMN コラム

脚本・演出 山田佳奈
出演 さとうほなみ
取材・文 興野汐里 ステージナタリー編集部

片田舎の剥製工房で苦悩する、「言葉にしがたい関係性」の人々。

□字ック『剥愛』はくあい

化けの皮剥がれたら全員同じなんでしょ。人間なんて、みんな

11月22日[水]19:00開演、23日[木・祝]14:30開演
脚本・演出＝山田佳奈
出演＝さとうほなみ、瀬戸さおり、山中聡、岩男海史、柿丸美智恵、吉見一豊
会場＝PLATアートスペース

「ロミオとジュリエット」をベースにした市民と創造する演劇「悲劇なんてまともじゃない」で上演台本・演出を手がけた山田佳奈が、自身が主宰する劇団・□字ックの新作を引っ提げて穂の国とよはし芸術劇場PLATへやって来る。□字ックにとって約3年ぶりの新作「剥愛」では、山田が二十代の頃から構想していたという剥製師の物語が展開。白黒つけがたいグレーな事柄や“言葉にしがたい関係性”の人々が多数登場する本作に、山田と主演のさとうほなみはどのような思いで臨むのか？

山田佳奈［やまだ・かな］／神奈川県出身。脚本・舞台演出・映画監督・俳優。元レコード会社のプロモーターを経て、2010年3月□字ックを旗揚げ。以降全ての脚本・演出を手掛けている。2016年『夜、逃げる』で映画演出にも挑戦し、2020年自身初の長編デビュー『タイトル、拒絶』が東京国際映画祭日本映画スプラッシュ部門に選出、更に東京ジェムストーン賞を受賞。Netflixオリジナルドラマ『全裸監督』脚本など外部作品への書き下ろしも積極的に行っており、初小説『それと家族、あらがえど家族、だから家族は』を双葉社より出版。近年は新国立劇場「未来につなぐもの」シリーズ6月公演『楽園』にて脚本執筆（演出：眞鍋卓嗣）。また、初の漫画原作『都合のいい果て』がモーニング ツー（講談社）にて連載中。

――「剥愛」では、片田舎の集落にある剥製工房を舞台に、主人公の千田菜月をはじめとする人々の正義を巡る物語が描かれます。剥製師という特殊な職業を題材にしようと思ったきっかけは何ですか？

山田―― 二十代の頃、劇団公演のビジュアル撮影で使う剥製を借りに、剥製工房へ行ったことがあったんです。そこでニワトリの剥製の色塗りを見せてもらったんですが、剥製師の方がトサカに血の色を足すときに言っていた「これは命を足していく作業なんです」という言葉がずっと心に残っていて。当時は人間や動物の死生に携わる仕事をしている人と関わる機会があまりなかったけれど、三十代後半になって、いろいろな経験を経た今なら、剥製師という仕事を題材にした作品が書けるかもしれないと思ったんです。

―― 主演を務めるさとうほなみさんとは、プロットが形作られた段階で初めてお会いしたと伺いました。その後、脚本を仕上げるにあたり、さとうさんとお話ししたエピソードやさとうさん自身のイメージが反映された部分はありますか？

山田―― 今回もそうなのですが、私はあまり当て書きをすることがなくて、基本的には“書きたい物語”を優先することが多いです。ただ、実際にほなみちゃんと会って、他人に気を遣わせない繊細さを持っている人だということを知ったからこそ、菜月という役の生きづらさがより濃く表現できそうだなとも感じています。

これまでに当て書きをしたのは、今年穂の国とよはし芸術劇場で上演した、市民と創造する演劇「悲劇なんてまともじゃない」くらい。市民劇には、お芝居を生業にしていない一般の方が出演しますが、そういった方々が舞台に立つこと自体が素晴らしいことだと思います。だから、市民劇に参加した方々には、実際にステージに上がったとき、自分自身を肯定してもらえた喜びや高揚感を味わってもらいたい。そんな思いから、「悲劇なんてまともじゃない」のときは参加者の皆さんのパーソナリティを知ることから始めて、脚本に落とし込んでいきました。

―― 劇団内外問わず、さまざまな演劇、映像作品を手がけてきた山田さんの、脚本家としての幅の広さを感じます。さとうさんは今回、剥製師である父の仕事や人間性を嫌悪しつつも、ある事情で実家に戻り、家族や自分自身と向き合い苦悩する長女・菜月を演じますが、どのようなアプローチで役を立ち上げたいと考えていますか？

さとう―― 例えば、「この人のああいうところ、嫌だな」と感じている言動を、自分自身が無意識に他人にしてしまっていることってけっこうありますよね。菜月は他人のせいにするところがあって、自分自身の良くない部分を理解できていない、かつそれと向き合う怖さにもまだ気付けていない人。今回は、そんな菜月が抱えるグズグズした思いをうまく表現できればと思っています。「剥愛」には菜月の妹・栞というキャラクターが登場するんですが、私にも5個下の妹がいて。妹は「お姉ちゃんみたいになりたくないし、絶対にならない」と言って私を反面教師にして生きてきたので、菜月と栞の関係に似ているなと思いました。私と妹は和解できましたが、そうでない人たちもいる。そんな“言葉にしがたい関係性”をキャストの皆さんと立ち上げられたらいいなと思います。

山田―― わかる。「剥愛」の中には、言葉にするのが難しい、白黒つけがたいグレーな事柄がたくさん出てくるんだよね。人間って、他人を傷つけたいと思っているわけではないのに、結果的に人を傷つけてしまったり、傷つけることをわかっていながら自分の気持ちを優先してしまう弱さを持った生き物なんじゃないかと思うんです。多種多様な人間がいるから、すべての物事を善と悪に分けることは難しいと思うんですけど、近年「白は白、黒は黒、グレーなものは認めない」という考え方を持つ人が増えたと感じていて。それが生きづらさを感じる要因なのかなと思うし、最近ずっとそういうことを考えていたから、今回「剥愛」のような題材の脚本を書いたのかもしれません。

―― 本作には菜月役のさとうさんに加え、千田家を取り巻く“言葉にしがたい関係性”の人々演じるキャストに、瀬戸さおりさん、山中聡さん、岩男海史さん、柿丸美智恵さん、吉見一豊さんといった個性豊かな面々がそろいました。

山田―― 私はけっこう優柔不断なところがあるんですけど、今回は迷うことなく一緒に進んでくれそうな俳優たちが集まってくれたと思います。

さとう―― おのおの違うベクトルで個性的な方々ですよね。「剥愛」のビジュアル撮影の日、大雨が降ってジメジメしていたというのもあると思うんですけど、キャストの皆さんから“紫色の空気”が立ち込めていたように感じたんですよね。腹に一物抱えていそうな人たちが醸し出す雰囲気というのかな。皆さん、いい意味で一筋縄ではいかないところがありそうな方ばかりで、すごく惹かれました。

山田―― 紫色の空気っていいね（笑）。劇中に、フリードリヒ・ニーチェの「善悪の彼岸」から引用した「怪物と戦う者は、その際自分が怪物にならぬように気をつけるがいい。長い間、深淵を覗き込んでいると、深淵もまた君を覗き込む」という一節が出てくるのですが、こういった要素はこの時代を生きている人、みんなに響くんじゃないかと思うし、自分自身を振り返る良い機会になったらいいなと思います。私は反面教師になるような作品しか作れないけど、□字ックの作品を観て「救われた」と感じる人が1人でもいたらうれしいですね。

さとう――「剥愛」のプロットを読んだとき、“今、私が向き合わなければならない作品”だと感じたんです。自分にとってターニングポイントになるし、これをクリアしないときっと前に進めない。それくらいしっかり対峙したいと思える作品と役柄だったので、私が感じたことを、皆さんそれぞれの感性で受け取ってもらえたらいいなと思います。

撮影：玉井美世子

INFORMATION
PLAT主催・共催公演情報

PICK UP

『海をゆく者』

1月13日のみ

2024/1/12[金]18:00開演
1/13[土]13:00開演
1/14[日]13:00開演

アイルランド演劇界をリードする気鋭の劇作家コナー・マクファーソンの出世作にして、代表作。日本では、演劇界を牽引する5人の名バイプレイヤー達が、演出家栗山民也の元に結集し、丁々発止のセリフの応酬と円熟味あふれる絶妙なアンサンブルで、2009年に初演、2014年にはPLATでも再演され、そして今回の上演では新たなキャストを迎えて、珠玉の名作が復活します。

【あらすじ】
アイルランド、ダブリン北部。海沿いの町にある古びた家に、若くはない兄弟が二人で暮らしている。兄のリチャード(高橋克実)は大酒のみで、最近、目が不自由になり、その世話のために戻ってきたという弟のシャーキー(平田満)は、酒癖の悪さで多くのものを失い、今は禁酒中。陽気で解放的な性格のリチャードは、クリスマス・イヴも朝から近所の友人アイヴァン(浅野和之)と飲んだくれ、シャーキーが顔を合わせたくないであろう男ニッキー(大谷亮介)を「クリスマスだから」とカードに誘ってシャーキーを怒らせる。さらには、ニッキーが連れてきた一人の男、ロックハート(小日向文世)。彼こそが、シャーキーが忘れたくとも忘れられなかった男だった。

会員先行=11月4日(土)
一般=11月18日(土)
作=コナー・マクファーソン
翻訳=小田島恒志
演出=栗山民也
出演=小日向文世、高橋克実、浅野和之、大谷亮介、平田満
会場=PLAT主ホール
料金=[全席指定]S席9,000円、S席ペア16,000円、A席7,000円、B席5,000円ほか
※小学生～18歳の無料招待あり。

マイセレクト4 対象公演

託児サービス対象公演
要予約。生後6ヶ月以上。
お一人様500円。お申込み、お問合せはプラットチケットセンターまで

ミュージカル『天翔ける風に』

10/19[木]18:00開演
10/20[金]13:00開演
10/21[土]13:00開演
10/22[日]13:00開演

受付終了
好評発売中

演出・振付=謝珠栄
原作=ドストエフスキー
脚色=野田秀樹『贋作・罪と罰』より
出演=珠城りょう、屋良朝幸／今拓哉、東山義久、原嘉孝、加藤梨里香／駒田一、剣幸ほか
会場=PLAT主ホール
料金=[全席指定]S席一般10,000円、A席一般7,000円ほか
※小学生～18歳の無料招待あり。

高校生と創る演劇
『101年目の夏休み』

11月4日 13:00のみ
好評発売中

11/3[金・祝]13:00開演／18:00開演
11/4[土]13:00開演／18:00開演
11/5[日]13:00開演

作・演出=吉田小夏
出演=オーディションで選ばれた高校生
会場=PLATアートスペース
料金=[全席自由・日時指定・整理番号付]一般2,000円、U25 1,000円、高校生以下500円
[助成]文化庁文化芸術振興費補助金(統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業(アートキャラバン2))｜独立行政法人日本芸術文化振興会
[特別協賛]サーラグループ

『ロスメルスホルム』

受付終了
予定枚数終了

10/28[土]17:00開演
10/29[日]13:00開演

「近代演劇の父」と称されているノルウエーの劇作家ヘンリック・イプセン。イプセンの作品の中で最も複雑で多面的な演劇という評価がある一方、最高傑作のひとつともいわれる本作品を、2019年読売演劇賞大賞・最優秀演出家賞に輝いた日本演劇界の巨匠・栗山民也が手掛けます。観客の想像力を刺激する演出とともに、物語のもつ命題にとのように迫るのか注目です。
原作=ヘンリック・イプセン
脚色=ダンカン・マクミラン
翻訳=浦辺千鶴
演出=栗山民也
出演=森田剛、三浦透子、浅野雅博、谷田歩、櫻井章喜、梅沢昌代
会場=PLAT主ホール

穂の国とよはし芸術劇場PLATプロデュース
『たわごと』

2023マイセレクト4
11月18日のみ
好評発売中

作・演出=桑原裕子
出演=渋川清彦、田中美里、谷恭輔、松岡依都美、松金よね子、渡辺いっけい

【豊橋公演】
11/16[木]19:00開演 ／11/17[金]13:00開演
11/18[土]13:00開演 ／11/19[日]13:00開演

会場=PLAT主ホール
※17日(金)、18日(土)終演後トークあり。
※19日(日)は視覚に障がいのあるお客様のための「舞台説明会」あり。
※視覚・聴覚に障がいのある方、付添者の無料招待あり。
[特別協賛]サーラグループ

[豊橋・東京公演　共通事項]
料金=[全席指定]S席5,500円、S席ペア10,000円、A席3,000円ほか
[助成]文化庁文化芸術振興費補助金(統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業(アートキャラバン2))｜独立行政法人日本芸術文化振興会

【京都公演】
11/23[木・祝]14:00開演
会場=ロームシアター京都 サウスホール
お問合せ=ロームシアター京都 チケットカウンター(075-746-3201)

【岡山公演】
11/26[日]14:00開演
会場=岡山芸術創造劇場 ハレノワ 中劇場
お問合せ=岡山芸術創造劇場ボックスオフィス(086-201-2200)

【東京公演】
12/8[金]～17[日]
全10回公演
会場=東京芸術劇場 シアターイースト
お問合せ=プラットチケットセンター(0532-39-3090)

□字ック
『剥愛』
2023マイセレクト4
11月23日のみ
好評発売中
11/22［水］19:00開演
11/23［木・祝］14:30開演

脚本・演出＝山田佳奈
出演＝さとうほなみ、瀬戸さおり、山中聡、岩男海史、柿丸美智恵、吉見一豊
会場＝PLATアートスペース
料金＝［全席指定］一般4,000円ほか

さとうほなみ

瀬戸さおり

山中聡

岩男海史

柿丸美智恵

吉見一豊

読売日本交響楽団
ニューイヤー・コンサート
藤岡幸夫×亀井聖矢
《愛のシベリウス》
ライフポートとよはし
2024/1/27［土］15:30開演

会場＝ライフポートとよはし コンサートホール
料金＝［全席指定］S席一般5,000円、A席一般3,500円ほか
※発売日初日は、お一人様1申込につき4枚まで枚数制限あり。

日本を代表するオーケストラ、読売日本交響楽団が登場！豊潤なサウンドで華麗なる名曲をお届けします。指揮は、情熱的なタクトで人気の実力派マエストロ・藤岡幸夫。さらにソリストは、ロン＝ティボー国際コンクールで優勝し熱い注目を浴びる気鋭ピアニスト・亀井聖矢が共演します。
会員先行＝10月21日（土）
一般＝11月4日（土）
出演＝藤岡幸夫（指揮）、亀井聖矢（ピアノ）、読売日本交響楽団
演奏予定曲＝モーツァルト：歌劇「後宮からの誘拐」序曲、プロコフィエフ：ピアノ協奏曲第3番、シベリウス：交響曲第2番

藤岡幸夫　撮影：Shin Yamagishi

亀井聖矢　撮影：T.Tairadate

読売日本交響楽団　撮影：読響

ぷらっと落語会
2024/2/7［水］18:30開演

テレビなどでお馴染み春風亭昇太をはじめ、人気者・芸達者が勢揃い！
会員先行＝11月11日（土）
一般＝11月18日（土）
出演＝春風亭昇太ほか
会場＝PLAT主ホール
料金＝［全席指定］一般3,000円ほか

二兎社
『パートタイマー・秋子』
2024/2/12［月・祝］13:00開演
2023マイセレクト4

永井愛が20年前に劇団青年座に書き下ろした話題作。永井愛本人による初演出で上演します。
会員先行＝12月2日（土）
一般＝12月16日（土）
作・演出＝永井愛
出演＝沢口靖子、生瀬勝久／亀田佳明、土井ケイト、吉田ウーロン太、関谷美香子／稲村梓、小川ゲン、田中亨、石森美咲／水野あや、石井愷一
会場＝PLAT主ホール
料金＝［全席指定］S席6,000円、A席4,000円ほか
※発売日初日は、お一人様1申込につき4枚まで枚数制限あり。

沢口靖子

生瀬勝久

ONE COIN CONCERT ワンコインコンサート

会員若手音楽家育成事業
プラットワンコインコンサート
「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのワンコインコンサートです。500円で贅沢なひとときをお過ごしください。
会場＝PLATアートスペース
料金＝［全席自由・整理番号付］500円

2024/1/3［水］14:00開演
『パリに恋して』
髙柳鞠子（フルート）
会員・一般発売＝10月21日（土）

2/15［木］14:00開演
『Fusion of Jazz & Classic』
デュオ・ミスコラーレ
松山美津穂（ピアノ）、伊井夕雛（ピアノ）
会員・一般発売＝10月21日（土）

松山美津穂　伊井夕雛

3/19［火］18:30開演
『語りと営み』
Femme Fatale
安間誉和（作曲・ピアノ）、山本大地（ヴァイオリン）、鈴木崇朗（バンドネオン）、長谷川志樹（ピアノ）、悦木啓人（作曲・ベース・クラリネット）
会員・一般発売＝2024年1月3日（水）

WORK SHOP ワークショップ

ワークショップファシリテーター養成講座 2023［後期］
長期的・継続的な視点でワークショップを進行する人材「ファシリテーター」を地域に育成する連続講座。後期では豊橋の人や場所を取材し、をこで出会ったことに焦点を当て、受講生全員で演劇を作り、発表します。
12月10日［日］～2024年1月28日［日］【全8回】
講師＝柏木陽、すずきこーた、吉野さつき
会場＝PLAT
対象＝18歳以上で極力全日程参加できる方。演劇経験不問。
料金＝3,000円［全8回］
定員＝20名（応募者多数の場合は選考）
申込方法＝12月1日（金）17:00までに①申込書に必要事項を記入の上、窓口に持参かFAX（0532-55-8192）②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

市民と創造する演劇『地を渡る舟ー1945/アチック・ミューゼアムと記述者たちー』市民スタッフ募集
オーディションで選ばれた出演者、プロスタッフとともに作品を作り上げてゆく、市民スタッフを募集いたします。
活動期間＝2023年12月～2024年3月3日（日）
対象＝高校生以上で、2023年12月～2024年3月3日（日）に市民スタッフとして舞台づくりに積極的に参加してくれる方。
定員＝なし
申込方法＝11月12日（日）までに①参加申込書に必要事項を記入の上、窓口に持参かFAX（0532-55-8192）②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

TICKET CENTER チケットセンター

チケットの購入・お問合せ プラットチケットセンター
◉**劇場窓口・電話**
0532-39-3090［休館日を除く10:00ー19:00］
◉**オンライン**
http://toyohashi-at.jp［24時間受付・要事前登録］
◉**チケット販売**
販売初日はオンライン・電話のみ取り扱い。翌日以降、残席がある場合は窓口販売あり。

U25・高校生以下割引で案内
ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
◉料金＝U25［25歳以下］：公演ごとに指定する席種の半額／高校生以下：1,000円
◉購入方法＝各公演の一般発売初日から取扱い。
◉その他＝本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時本人確認書類提示。一部例外あり。詳細は各公演チラシ・HPにて。

プラットフレンズ募集 入会金・年会費無料
特典
1 公演情報をメールでご案内します。
2 インターネットでチケット予約ができます。
3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
※劇場窓口またはホームページからご登録いただけます。

18歳以下のお子様を無料ご招待［座席限定・事前申込制］
文化庁による子供文化芸術活動支援事業（劇場・音楽堂等の子供鑑賞体験支援事業）として、以下の公演が採択されました。ぜひこの機会をご活用ください。
公演によって申込方法が異なります。詳細は劇場HPにてご確認のうえお申込みください。
10/19-22 ミュージカル『天翔ける風に』

2024/1/12-14 『海をゆく者』
申込方法＝11月4日（土）よりプラットチケットセンターオンラインにて受付開始。
対象＝公演当日に小学生～18歳の方

安間誉和

山本大地

鈴木崇朗

長谷川志樹

悦木啓人

DIALOGUE 対談

高校生と創る演劇

『101年目の夏休み』

3日間のワークショップを経て、高校生への印象と期待。

作・演出
吉田小夏

演出助手
日沖和嘉子
土屋杏文

聞き手
矢作勝義

日沖和嘉子

土屋杏文

矢作―― オーディションと3日間のワークショップを経て、実際に見た彼らについての印象と期待したいことは。

土屋―― オーディションの時は緊張しながらも実力を出そうというものが垣間見え、本当に素敵な方々が集まったという印象です。8月のプレワークショップ初日に、夏の思い出として高校生の皆さんに写真を見せてもらうと、同じ海の写真でもまったく違う場所だったり、いいと思うことが違っていたり、一人ひとりの人となりも見えてきた。思っている以上に面白い人たちが集まってくださった。自分が高校生の時はそこまでの創造性がなく、もしこの時代に戻れたら一緒に創作するのがとても楽しいだろうなと思いました。期待するのは、皆さんすごく軽やかに演じ、自由なので、自分の持っている強みや、思うことを大切にして、どんどんどんどん成長してほしいです。

日沖―― 甥っ子が高校2年生で、かわいくてしょうがないので、どうしても高校生かわいいとなりがちなのを、小夏さんから「もう子どもではない、でも大人でもない」と言われました。ワークショップで子どもじゃない部分を見せられ、休憩中にはめちゃくちゃ子どもっぽいところを見せられ、自分もそうだったはずですが、そのギャップがとてもまぶしく感動しています。最初に矢作さんから、ちょっとした瞬間に皆の学校や家庭の事情とかが垣間見えるときがあると言ってもらったように。16年、18年、生きていたらそんなことは当然あって、でもここに集まったらみんな、作品を、この瞬間を楽しもうとすることが出来るのが嬉しい。彼らに何かしてあげられることはなく、そこまで介入できないが、ここで一生の宝物を作ってほしいです。

矢作―― みんな同じように見えるが、背景はさまざまなものを抱えて、何かを求めてここに来ているという人が何人もいたりする。そういうものが見えてきた瞬間に、我々は頑張らなきゃいけないと思う。劇場としてこの企画を継続したいと思うのはそういうところからなので、感づいてくれて非常に嬉しいです。彼らが何らかの事情でリタイアしないようにできるといいなと思っています。

吉田―― ワークショップの最後に、一人の子がこの作品への期待で、最後までこのメンバーでやりきりたいと言った。大人とかプロはあんまり言わないので、ドキッとした。学校や部活では、そこが頑張りどころなんだと、その願いを叶えたいと思いました。彼ら自身がこの夏のワークショップでそういう気持ちを仲間に持てたのは嬉しかった。

矢作―― 学校も違い、よほどのことがない限り名古屋の子と豊橋の子は出会う機会がない中で、こうやって作品創りができるのはとてもいい機会だし、新しいものを生み出すのはいろいろ苦労もありますが、彼らの人生に豊かなものをプラスできるかなとは思っています。ワークショップでは元気だったが、なかなか先に行きづらくなる瞬間も出てくると思うので、そのときにちょっと後押ししてもらえるといいのではないかと思います。

お二人にも、観に来ていただけるであろう人たちに向けてのメッセージをいただけますか。

土屋―― 小夏さんがよく稽古中に、高校生の時の声帯は大人になってからではどうにもならない。その高校生たちが高校生を演じることのすごさ、その時期、その一瞬しか見られない演劇だなと思う。その楽しさをぜひいろんな人に見てほしいなと思います。

日沖――3人で最初に会議をしたときに、「何かやりたいことある?」と小夏さんが言ってくれた。そのとき私は、歌あり、踊りありが観たいですと、結構むちゃなことを言ったのですが、歌あり、踊りありがふんだんに入ったこの作品をぜひ楽しんでいただきたいと思います。

矢作―― 歌も踊りもあり、楽しみにしていただけると、ということで。ありがとうございます。

SPONSOR 広告募集

知識製造業
三遠機材株式会社
http://www.san-en.co.jp

吉野設計研究所
http://www.440a.co.jp

有限会社 魚伊
電話52-5256

グロトリアンピアノ地域特約店
白羽楽器 株式会社
電話053-464-3015

ケンチク クロノ
KURONO ARCHITECT STUDIO
y.qlo0170@gmail.com

看板広告 アラキスタヂオ
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら
精文館書店
TEL.54-2345

なければつくる
ONOCOM 株式会社オノコム

外科・内科・胃腸科・麻酔科・肛門科
医療法人栄真会 伊藤医院
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283(代)

創業文政年間
日本橋 きく家
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL53-2809

豊橋銀行協会 (順不同)
三菱UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 三十三銀行
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

創業江戸 御茶屋菓子専門店
御菓子司 若松園

気まぐれコンサート
事務局/0532-62-9259(小川)

安心・安全な地下駐車場
パーク500
プラット主ホール・アートスペース公演等へのお客様は
30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・麻酔科
医療法人 塩之谷整形外科
理事長 塩之谷 昌
豊橋市植田町関取54 電話0532-25-2115(代)

豊橋名産 ちくわ

井上皮フ科クリニック
診療時間 月・火・木・金 10:00〜13:00 16:00〜19:00
土 10:00〜14:00 休診日=水・日・祝
電話0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。
共和印刷株式会社
豊橋市小池町36番地の1 TEL46-3281 FAX46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 大岩整形外科・皮フ科
院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆
書道用品専門店 高誠堂
豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

ISO9001 ISO14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得
株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

sala
サーラグループ

SUPPORT 特別賛助会員のご紹介

私たちは穂の国とよはし芸術劇場の活動を支援しています。

株式会社アイセロ
旭精機株式会社
株式会社イクモ
税理士法人イグラ会計
イノチオホールディングス株式会社
株式会社エクスラージ
大和田和惠
株式会社オリエント楽器
医療法人佳道会 藤城歯科医院
蒲郡信用金庫
川西塗装株式会社
河原崎 妙
株式会社呉竹荘ホテルズ 豊橋ステーションホテル
株式会社三光製作所
三光精密工業株式会社
サーラエナジー株式会社
株式会社サーラコーポレーション
三遠機材株式会社
株式会社東雲座カンパニー
株式会社シュガーサウンド
大三紙業株式会社
トヨタネ株式会社
トヨネン株式会社
株式会社豊橋印刷社
豊橋芸術文化事業サポート株式会社
豊橋ケーブルネットワーク株式会社
豊橋信用金庫
豊橋鉄道株式会社
中野博三
早川直宏
株式会社平松食品
藤城建設株式会社
学校法人藤ノ花学園
株式会社豊川堂
松井商事株式会社
村田小児歯科センター
物語コーポレーション
有楽製菓株式会社 豊橋夢工場
若松園
匿名会員1名

(五十音順)

〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
電話=0532-39-8810[代表](9:00−20:00)
開館=9:00−22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、
新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、
お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT